



MBニュース



丸松物産株式会社

【中国情報】

※新物チェリー産地情報

弊社の定期的な仕入先調査の一環として、中国産チェリーの産地である山東省煙台地区に弊社貿易部員を6月19日迄出張させ、そこで調査を行った結果を以下の通り、ご報告します。

今年の新物チェリーは、やはり4月下旬に発生した大雪の影響による冷害を受けており、更に5月についても気温があまり上がらなかった為、例年より二週間遅れとなる12日からの生産開始となりました。

収穫された今年の原料の特徴と致しましては、サイズが極端に小さかったり、大きかったりしており、また未熟果実が目立っていました。また収穫直前には強風であったことから、果実への傷が見受けられておりましたので、これらの原料を入荷する製造工場に対し、選別除去の徹底を指示致しました。

生産量につきましては、4月の冷害により十分な原料の確保が出来なかった為、昨年より約2割減になる見通しであり、その原料価格は昨年より約10%高で取引されています。

日本向けの製品価格につきましては、人件費などの上昇に加え、円安の影響が懸念されておりますが、弊社と致しましては、安心安全な製品の確保に努めて参りたいと考えます。



チェリー栽培風景①



チェリー栽培風景②

【中国産地情報】

※大幅な円安 産業回帰を試みる日本企業

オムロンは来年より、日本にある電子血圧計の生産ラインを再稼働させることを決定した。中国で生産されていた一部の電子血圧計が、日本生産に戻る事になる。

オムロンは1990年代に、電子血圧計の生産を人件費の安価な中国市場にシフトした。当時の中国の人工費は、日本の10分の1未満だったという。しかし中国の人工費などのコストが上昇を続け、この差は既に4分の1にもみたくなくなっている。

オムロンより先に、アップルのパネルサプライヤーのジャパンディスプレイは昨年より、中国蘇州工場の一部の生産能力を日本の茂原工場に戻すことを計画していた。同計画は今年中に完了する予定だ。これもまた、中国と日本の製造コストの開きが縮小されていることが原因だ。ジャパンディスプレイは、日本で自動化生産効率アップなどの手段により、「メイド・イン・ジャパン」も一定のコスト競争力を維持できると表明した。

業界関係者は、このような産業回帰現象が主流になることはない判断している。大幅な円安、人民元相場の上昇が生じているが、日本の人工費は中国をはるかに上回るという事実がある。しかし上述した業界関係者は、「中国と、ベトナム・タイ・インドネシアなど東南アジア諸国との人工費の間にも、開きが生じている。そのため日本企業を含む多くの外資系企業が、中国の生産能力をこれらの東南アジア諸国にシフトする大きな流れに注意が必要だ」と指摘した。

「人民網日本語版」2013年6月25日より抜粋

【新商品情報】

	商品名	しゃき筍ねぎ塩ペッパー 1kg	
	商品説明	シャキシャキとした食感の筍をねぎと胡椒の風味で塩味に仕上げました。サラダやトッピング等、お好みのアレンジでお使い下さい。	
	主要原材料	たけのこ、ねぎ	
	賞味期限	製造日より6ヶ月	
	使用上の注意	開封後は10℃以下に冷蔵して、5日以内にお召し上がりください。	

以上